

平成28年2月

澤田慎太郎 学位論文審査要旨

主査 汐田剛史
副主査 林 一彦
同 磯本 一

主論文

Preventive effect of geraniol on diethylnitrosamine-induced hepatocarcinogenesis in rats

(ラットのdiethylnitrosamine誘発肝発癌に及ぼすgeraniolの予防効果)

(著者：澤田慎太郎、岡野淳一、今本龍、安中幸、安部良、孝田雅彦、村脇義和、磯本一)

平成28年 Yonago Acta medica 59巻 37頁～43頁

参考論文

1. 当科の初発肝細胞癌の診断経緯の問題点

(著者：岡野淳一、澤田慎太郎、今本龍、安部良、藤瀬幸、村脇義和)

平成26年 鳥取医学雑誌 42巻 10頁～16頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、geraniolの肝癌に対する発癌予防効果をdiethylnitrosamine (DEN)を用いたラット肝発癌モデルを用いて検討したものである。その結果、geraniolは肝発癌モデルの肝酵素の上昇を有意に低下させ、またPCNA、GST-Pによる免疫組織化学染色にて定量的に評価すると、有意に肝細胞増殖の低下や肝癌前駆細胞の減少を認め、肝発癌予防に有用な薬物である可能性が判明した。本論文の内容は、フィトケミカルによる化学発癌予防の分野で、geraniolの肝発癌における有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。